

## 地域交流の拠点「ガレリア新蔵」

### 事業のポイント

- 展示室の常設パネルを用いて、徳島大学を広く紹介する。
- 企画展示などにより、徳島大学が所有するシーズ情報を発信する。
- ギャラリーフロアを学内外の団体やサークル等に貸し出し、利用に供する。

### 事業の概要

#### 1. ガレリア新蔵の概要と目的

ガレリア新蔵「展示室」では、本学の沿革、組織、理念・目標、学部紹介などを和英2ヶ国語で標記した「常設展示」と、教育・研究等、本学の様々な活動を取り上げた「企画展示」を行っています。ギャラリーフロアは、学内外の団体やサークル等に貸し出し、展示や催しなどの利用に供することで、地域交流の場として利用が広がっています。

#### 2. ギャラリーフロア開催状況

利用状況は下記の通りです。

- ① 竹と桜のオブジェを展示(4月6日～4月13日)
- ② 「文豪モラエスの徳島」パネル展示(第1回)  
(8月2日～9月24日)
- ③ 大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」  
春期受講生作品展(9月27日～9月30日)
- ④ 中野建吉写真展 残された記憶—ふるさとへの憧憬—  
(10月5日～10月9日)
- ⑤ 平成24年度徳島大学職員文化祭  
(10月20日～11月1日)
- ⑥ 「文豪モラエスの徳島」パネル展示(第2回)  
(12月5日～12月14日)
- ⑦ 大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」  
秋期受講生作品展(12月20日～12月22日)
- ⑧ 「巨大ピカソとクレールと花を観よう!」  
(1月17日～1月23日)
- ⑨ 『「いやし空間」から見た異文化交流』写真展  
(1月25日～1月31日)

### 事業代表者・連絡先

佐野 正孝 (地域連携戦略室長)  
連絡先: 〒770-8501 徳島市新蔵町2-24  
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9965  
e-mail: galleria@tokushima-u.ac.jp

- ⑩ 平成24年度徳島大学しんくら展  
(2月2日～2月14日)
- ⑪ 国際交流サロン「地域と留学生による書華道展」  
(2月16日～2月22日)
- ⑫ 徳島大学絵画表現研究室 平成24年度卒業制作展  
(2月24日～2月28日)
- ⑬ 国際交流サロン「日本語でしゃべらんで-ひな壇飾り」  
(3月2日～3月11日)
- ⑭ 徳島大学書道部・OB会書道展(3月14日～3月17日)
- ⑮ 大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」  
冬期受講生作品展(3月25日～3月28日)

#### 3. 「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアの利用法等

「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアは、徳島大学事務局と同じ徳島市新蔵町の徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)1階にあります。

利用希望の方は、下記の「ガレリア新蔵 Web サイト(URL)」で、「ご利用案内」から「ギャラリーの貸し出し」のページをご覧ください。使用申込にあたっては、下記サイトに掲載している申請書にご記入の上、申請書郵送先(〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地 徳島大学ガレリア新蔵)まで郵送して下さい。申請書は、ガレリア新蔵にも置いています。

なお、展示室の開館日は月曜日から金曜日の平日です。



ガレリア新蔵Webサイト:  
<http://www.tokushima-u.ac.jp/gs/>

## 病院

社会に開かれた病院として、地域医療機関との密な連携、国内外との人的交流の促進、様々な組織との連携を推進して社会貢献を実施しています。以下に取組の1例をご紹介します。

## 成長期スポーツ選手に対する検診活動

### 事業のポイント

- こどもでは成長途上にある骨や軟骨が傷みやすい。
- 障害の早期発見と予防の啓発。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

成長期のスポーツ選手では、発育途上にある骨や軟骨が傷みやすい。初期には症状が乏しく、進行すると日常生活にも支障をきたすことがある。そこで、障害の早期発見を目的に小学生スポーツ選手を対象とした検診活動を行っている。

#### 2. 事業の取組状況

野球は1981年(写真1)、サッカーは1985年(写真2)から毎年大会現場に出向いて検診を行っている。野球は7月中旬、サッカーは8月下旬に実施している。いずれも大会現場で診察を行い、障害が疑われた選手には病院受診を勧めている。また、2007年から診断精度を高めるためにポータブルエコーを現場に持ち込んでいる(写真3)。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

いずれの検診においても障害を早期に発見できるようになり、従来に比べて重症例は少なくなっている。特にポータブルエコーの導入により障害の発見率は高くなっている。こうした活動により現場の指導者や保護者の障害に対する意識が高まっているが、まだ十分とはいえず、教育啓発が今後の課題といえる。

### 事業代表者・連絡先

松浦 哲也 (大学病院・講師)  
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15  
tel: 088-633-7240 fax: 088-633-0178  
e-mail: tmatsu@clin.med.tokushima-u.ac.jp



写真1 野球検診の様子



写真2 サッカー検診の様子



写真3 ポータブルエコーによる検査

## 大学開放実践センター

### 事業のポイント

■ 地域貢献の新しい形としての一段レベルを高めた系統的教育プログラム「生涯学習研究院」。

### 事業の概要

大学開放実践センターは、約 25 年前に設置されて以来、質の高い公開講座を地域に提供する活動を推進してきており、現在では全国的に見てもトップレベルの規模を誇るまでに至っている。しかしながら、学外においても様々なカルチャーセンターが開かれてる現在、徳島大学に期待される新しい形の地域貢献は、一段レベルの高い公開講座であろうと考え、系統的な教育プログラムとして「生涯学習研究院」の開設を準備している。

これは、徳島県が現在抱えている様々な地域課題の解決に資するため、一般社会人を対象に、青少年健全育成、健康・フィットネス、災害対策と ICT、国際協力の 4 つの領域についての専門的な知識・技術などを体系的に学ぶ機会を提供し、自ら地域課題の解決に積極的に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを育成することを旨とする学習プログラムである。

今日、急激な社会経済の変化のなかで、地域の連帯感や人間関係の希薄化が進み、個人が主体的に地域や社会のために活動する機会も少なくなってきた。一方で、青少年の健全育成や地域の医療・福祉、防災、環境保全、国際化など対応すべき地域課題はますます増えてきており、地域社会の活性化を推進する人材育成や地域コミュニティの再構築のための仕組みづくりが求められている。

本学では、これまでも本センターや各学部・センター等においてそれぞれの研究成果を生かした特色ある公開講座や講演会等を実施し、地域振興に貢献してきた。

こうした実績を踏まえ、大学開放実践センターでは、創

### 事業代表者・連絡先

日置 善郎 (大学開放実践センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel:088-656-7234 fax:088-656-7665  
e-mail: hioki@tokushima-u.ac.jp

造力、実践力、応用力に富み、地域課題の解決に主体的に取り組む生涯学習・市民活動のリーダーを養成するための本学独自の学習プログラムを開発・実施することとした。

このプログラムの特徴は以下のようにまとめられる。

① 生涯学習の特定領域について、2 年間かけて体系的に学ぶ。

青少年健全育成、健康・フィットネス、災害対策と ICT、国際協力の 4 領域について、それぞれの領域の基礎科目、専門科目、演習、課題研究を 2 年間にわたり、体系的に学ぶプログラムである。

② 公開講座と大学の授業を組み合わせる学習する。

本センターが実施する公開講座だけではなく、4 つの領域に関係の深い分野の大学の授業を学生と一緒に履修するシステムになっている。

③ 「市民活動支援士」という称号を授与する。

厳格な審査を経た後に本プログラムを修了した者には、徳島大学大学開放実践センターから「市民活動支援士」という称号が授与される。「市民活動支援士」は、学校や公民館における学習活動の指導者など、主体的な活動を展開することにより地域課題の解決に貢献することを目指している。また、当大学開放実践センターにおいて、自ら企画した公開講座を開講することも可能となる。

### 報道実績

2013 年 2 月 6 日「地域課題解決ヘリリーダーを育成」

徳島新聞

## 情報化推進センター

### 事業のポイント

■ 本センターにて培われた ICT 技術 (インターネット・クラウド・セキュリティ等) をもとに、地域の自治体・産業に対して、事例紹介・ニーズ発掘等の活動を通じた調査研究等、人材育成などの ICT 化支援を行う。

### 事業の概要

情報化推進センターでは地域連携の取組みとして 3 つの事業を推進している。

#### 1. 地域 ICT 化推進事業

松村特任教授が中心となり、本年度は別途報告を行うパイロット事業として、地域の自治体 / 団体とともに連絡する機会を設け、本学が携わるべき支援内容、それらの優先度、実施手法等に関するニーズ調査・企画を策定する。徳島県商工労働部や商工政策課、および本学環境防災研究センターの協力を得て、企業のニーズ調査を行い、徳島 ICT 研究協議会開催の講演会を通じて、自治体 / 各種団体 / 県民のニーズを調査した。

■ H24.8.3 徳島県商工政策課と協力体制の考え方を擦り合わせ、地域の ICT 化の方向性などを確認した。

■ 8/21 環境防災研究センター主催 BCP セミナーに情報提供を行い、県内企業十数社に対し、地域クラウド構築 / BCP 情報対応等の講義を行い、アンケートを取った。

■ 1/12 徳島 ICT 研究協議会を開催。ICT を利用した地方の活性化の成功事例として、武雄市長を招き、各団体 (県、自治体、NPO 法人、企業、個人その他) に向け講演会を実施した。武雄市は日本初ホームページの Facebook 化など、ICT を使った大胆な政策を実行している。講演では Facebook での自治体通販 (FB 良品) の紹介もあった。パネルディスカッションとアンケートにて、ICT 応用のニーズを広く調査した。

■ 2/12 FB 良品 (地場産業通販) 勉強会を開催。四国初の FB 良品の導入をされた宇多津町長を招き、鳴門市、三好市、上板町、徳島県、その他団体が参加し、地域産業製品・物産の ICT 活用拡販についての意見交換を行った。今後もこの勉強会の枠組みで発展を検討する。

### 事業代表者・連絡先

上田 哲史 (情報化推進センター・センター長)  
〒770-8506 徳島市南常三島2-1  
tel / fax: 088-656-7555  
e-mail: ueta@tokushima-u.ac.jp

#### 2. 徳島オープンソースソフトウェア普及協議会

オープンソースソフトウェア (OSS) を活用した情報システム開発や運用、技術者育成、関連企業の育成を目指して、徳島 OSS 普及協議会が設立され、上田センター長が監事として参画している。当該協議会の運営に携わるとともに、産学官共同の地域振興・地域活性化に貢献しようとしている。H24 年 7 月に実施された当該協議会設立記念講演会を皮切りに、技術研究部会およびビジネス研究部会がスタートし、H24 年度ならびに 25 年度の活動計画や取り組み内容を審議した。また、並列して講習会や交流サロンを開設し、会員のモチベーションの掘り起こしや、技術情報の交換を行っている。上田も第二回交流サロンにて、OSS を使用した査読・出版システムの紹介を行い、連携した内容である四国大学細川講師の事例と合わせて、会員に情報を提供した。今後もこれらサロンやメーリングリスト、ならびに各種関連勉強会の実施、オープンソース・カンファレンスの徳島誘致・開催などに、本学として支援を行ってゆく。

#### 3. 徳島県警察ネットウォッチャー事務局との連携

徳島県警察本部サイバー犯罪対策係が運営する、ネットウォッチャー事務局に、本センターのスタッフがメンバーとして登録し、県警との情報セキュリティ情報を共有することとした。関連する集会として、「サイバーテロ対策協議会」において、佐野准教授が H24 年 9 月情報セキュリティ講演を実施した。このように県警メンバーならびに県民に対して最新情報セキュリティ技術などの積極的提供を行っている。



H25.2.12 FB良品勉強会の様子

## 国際センター

### 事業のポイント

- 地域の国際化支援のため、国際センターが提供している様々な事業について報告する。
- 国際センターでは、留学生を軸として地域や日本人学生との連携や協働など様々な形態を提供している。

### 事業の概要

留学生センター(現国際センター)の設置時よりセンター業務に、留学生への日本語教育、相談・指導、日本人学生の派遣をはじめ地域の国際化の支援があり、その遂行のため、地域のみ対象の講座から留学生・日本人学生・地域と一緒に活動するものまで、様々な形態のものを実施している。

#### 1. 地域サポーター制度

国際センター(以下センターとする)には、日本語教育を支援する徳島住民からなる「地域サポーター」と徳島大学の日本人学生からなる「学生サポーター」の登録システムがある。現在、日本語教育は全てセンターが実施していて、①集中講習型の日本語研修コース ②全留学生・研究者・研究生とその家族対象の全学日本語コース ③学部留学生対象の共通教育の日本語・日本事情 ④総合科学部の日本語教員養成に関わる科目 ⑤地域対象公開講座で、通年平均して34クラス程度開講されているが、各クラスの要請に応じ、担当教員の指導の下、地域または学生サポーターは、会話やスピーチ練習、動詞の変換練習などからレベルに応じて調査相手・レポートやプレゼンテーションについてのコメント、タスクやフィールドトリップの同行と多岐にわたる。活動を通し、地域及び日本人学生や留学生にとって得られるものが多く、異文化理解の入口となる。



地域サポーター① 授業支援  
地域サポーター② フィールドトリップ  
地域サポーター③ サマースクール

#### 2. 公開講座

センター設置時から数年大学開放実践センターでセンター教員5名によるオムニバス授業「国際ボランティア入門ー徳島に住む外国人を支援するとは」を開講。その後このコースは、共通教育協創型授業「国際交流の扉を拓く」に発展し、日本人学生・留学生・地域の混成型授業として、開講されている。公開講座としては、現在は地域からの要望もあって「国際ボランティア入門ー外国人に日本語を教えるとは」を開講し、ボランティア日本語教員希望者の支援を行っている。

### 事業代表者・連絡先

大石 寧子(国際センター・教授)  
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24  
tel / fax: 088-656-9875  
e-mail: oishi@isc.tokushima-u.ac.jp

#### 3. 国際交流サロン「日本語でしゃべらんで」

公開講座修了生の有志によるボランティアグループJSSとの共催で、毎月1回土曜日に実施。その時の行事や日本の文化をテーマに、日本語を使いながら共にそのテーマについて学ぶ協働型をめざしている。留学生にとっては、人的ネットワークの形成を助け、地域や日本人学生にとっては、異文化理解の一助となる。

- ① 5月19日 「居合道」を体験してみませんか
- ② 6月16日 茶道を楽しもう
- ③ 7月 7日 浴衣を着て阿波踊りを踊ろう
- ④ 10月17日 伝統的な日本の遊び(かるた・けん玉)
- ⑤ 11月17日 留学生の国への誘い～日本語による留学生のお国紹介
- ⑥ 12月 8日 着物の歴史を学んで、着てみよう
- ⑦ 1月26日 世界の料理を楽しもう
- ⑧ 2月16日 華道を楽しもう
- ⑨ 3月 2日 ひな壇を飾ろう



国際サロン  
(阿波踊り)



国際サロン  
(世界の料理)

#### 4. ホストファミリー

集中講習型の日本語研修コースやサマースクールでホストファミリーとしてホームステイに係わる。センターの日本語教員による文化の違いや外国人の受け入れについての事前説明をもとに1泊2日のホームステイの支援を行う。

この他にセンターでは、年度により地域向けシンポジウムの開催なども行っている。



シンポジウム

## 環境防災研究センター

### 事業のポイント

- 各種災害に対する被害予測や防災啓発活動。
- 自然環境の保全・修復・再生を目指した研究開発と地域支援。
- 自然災害に対する危機管理手法に関する研究開発と人材育成。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

本センターは防災科学部門、自然環境科学部門、地域社会部門、災害医療部門、危機管理部門の5つの部門で地域の防災と自然環境保全に関する研究を推進するとともに、地域に密着した活動を通して地域に貢献している。

#### 2. 事業の取組状況

##### ① 講演会などの市民講座やシンポジウムの開催

- ①中央防災会議・新たな地震・津波想定に関する解説会  
4月6日(工業会館)
  - ②北関東突風災害調査報告会  
5月16日(工業会館)
  - ③東日本大震災調査報告会  
6月5日(工業会館)
  - ④第4回生物多様性協働フォーラム  
8月26日(徳島県教育会館)
  - ⑤九州北部豪雨災害調査報告会  
8月31日(工業会館)
  - ⑥講演会「いま、水害のリスクを考える」  
9月1日(工業会館)
  - ⑦南海トラフ地震被害想定学習会  
9月5日(工業会館)
  - ⑧企業防災セミナー in 徳島  
10月30日(徳島グランヴィリオホテル)
  - ⑨徳島大学地域防災講演会  
「南海トラフ巨大地震に備える」  
11月10日(工学部創成学習スタジオ)
  - ⑩平成25年自然災害フォーラム  
3月15日(工業会館)
- ##### ② 防災番組等の共同制作
- 四国放送ラジオ、防災特別番組  
「南海・東南海地震に備えて」  
平成24年1月～12月第1土曜日20:00～20:58

### 事業代表者・連絡先

村田 明広(環境防災研究センター・センター長)  
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学環境防災研究センター  
tel / fax: 088-656-8965  
e-mail: murata@tokushima-u.ac.jp

#### ③ 防災パンフレットの制作協力

エフエム徳島「2012年度版防災パンフレット」  
A5版、64ページ。

#### ④ 危機管理の人材育成

- ①自主防災リーダー  
徳島県地域防災推進員養成講座、(工学部共通講義棟)、  
修了生16名、徳島県地域防災推進員短期養成講座(徳島県立防災センター)、修了生33名
- ②地域防災・危機管理マネージャー  
徳島県BCP研究部会、毎月1回(工業会館)、  
BCP策定研修会、5月17日(工業会館)、5月24日(美馬市総合福祉会館)、5月31日(阿南市文化会館)など。
- ③災害医療・保健福祉コーディネータ  
第2回災害時遺体対応・遺族支援研修会  
2月24日(医学部青藍会館)
- ④危機管理人材育成プログラムの開発  
香川大学と共同で提案した文部科学省大学間連携共同教育事業「四国防災・危機管理特別プログラム共同開設による専門家の養成」が採択され、10月から事業を開始している。

#### 3. 事業実施による成果と今後の展開

平成25年4月には、大学院先端科学技術教育部において、「四国防災・危機管理特別プログラム」がスタートする。このプログラムでは大学院生とともに自治体や企業等の社会人も科目等履修生として防災や危機管理について学ぶことができる。従来から実施してきた地域連携に加えて、この重要なプロジェクトを着実に前進させることがこれからの大きな課題である。

## 地域創生センター

### 事業のポイント

■ 地域連携によるビジネス創出支援や地域人材育成、実践モデル教育・研究の拠点形成、地域課題解決型のイノベーション・プラットフォームの構築に取り組む。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

地域創生センターでは、平成 24 年度より地域連携・地域貢献の推進のため、部門を「コミュニティデザイン部門」、「地域協働デザイン部門」、「公共システムデザイン部門」の 3 部門に改め、実践的地域戦略と学内連携のもと、県、各自治体、企業、他大学等との連携強化、ビジネス創出、サテライトオフィスを核とした地域資源活用などの地域課題解決、地域人材育成、地域支援研究に取り組み、「魅力・活力ある徳島づくり」の実践活動を展開した。

#### 2. 事業の取組状況

##### コミュニティデザイン部門事業

##### 〈防災・減災害支援〉

①環境防災研究センターと連携し、災害に強いまちづくり推進のための研究会発足と関連シンポジウムを開催した。  
②大規模災害時孤立対策として、アマチュア無線の普及を図るため、上勝町、那賀町、放送大学、徳島県立図書館との共催で講演を行った。  
③企業や他大学と連携し災害時に地域の地盤災害を未然に防ぐことを目的とした地盤変状モニタリング装置の開発・実験を行った。  
④防災・減災活動として、危険地域上空からの航空撮影による観測・観察を目的とした無人ヘリによる遠隔撮影システムと空撮作業の一般での運用をめざし、低コストで安定した飛行で高精度な画像を撮影できるマルチロータに関する研究を行った。  
〈地域情報化・にぎわいづくりに関する研究〉

大学が一般に開放しているガレリア新蔵への画像処理による人数計測システムの導入により、平常時の利用状況やイベントの賑わい度を調査した。

##### 〈SB 人材育成〉

地域の NPO と連携し、地域の小中高生を対象に、ロボットやプログラムの製作を通し、未来を担う人材育成を目的とした徳島ロボットプログラミングクラブを実施し、受講生がロボカップジュニアジャパン徳島ノード大会に出場した。また、ロボット教室の企画・運営を通して、大学生の企画立案能力および ICT 技術等の知識の向上を図る取組みも同時に実施した。

### 事業代表者・連絡先

吉田 敦也（地域創生センター・センター長）  
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24  
tel / fax: 088-656-7651  
e-mail: yoshida@cr.tokushima-u.ac.jp

### 〈地域人材育成〉

①上勝町と連携し、中山間地域人材育成のための地域再生人材創出講座、住民ニーズを取り入れた上勝学講座、大学院科目「ビジネスモデル特論」の開発・開講を行った。  
②那賀町と連携し、農林業の再生、地域資源を活かした観光産業の育成や新産業の創造を通じた人材育成を目的とした講座を開催した。

#### 地域協働デザイン部門事業

##### 〈中山間地域・臨海地域のまちづくり支援〉

徳島県南部総合県民局と連携し、「南阿波サンライン」の積極的な活用を検討するワークショップを開催し、ビューポイントの設定やイベント企画等を通じて南阿波サンラインの認知度と利用率の向上を目指した。

##### 〈中山間地域ビジネス創出支援〉

徳島県と連携し、高齢者にも負担の少ない一次産業の活性化を図り、過疎地で採れた薬草を食材とする「阿波☆美粥・爽夏編」を提案、県内ホテル、農家民宿、温泉、徳島大学生協において提供された。

#### 公共システムデザイン部門事業

##### 〈公共人材育成〉

①地域社会人と学生が双方向で学び合うアクティブラーニングプログラムを、全学共通教育・共創型学習科目において開講した。  
②徳島県立総合大学校との連携事業として、全学共通教育の授業に徳島県職員を外部講師として招き、徳島が抱える課題や解決策等についての講義を開講した。

### 3. 事業実施による成果

#### 報道実績

- 2012 年 7 月 6 日 夏も特産薬草入り「阿波☆美粥」ハモ入りも…徳島 読売新聞徳島版
- 2012 年 7 月 10 日 薬膳粥で夏バテ解消「阿波☆美粥」、第 2 弾 県・大学・ホテル開発 徳島新聞
- 2012 年 10 月 日本スギダラケ倶楽部 web 機関誌 (10 月号) 特集 <http://www.m-sugi.com/index.html>
- 2012 年 12 月 21 日 「高精度安価な水分計」北陸中日新聞 1 面

## 産学官連携推進部

### 事業のポイント

■ 大学の研究者及び研究シーズの企業への紹介と共同研究及び技術移転等の推進。  
■ 将来を担う地元企業の中核人材を対象とした産業人材育成事業。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

産学官連携推進部では、産業界との連携を図るため、企業からの技術相談等への対応、本学の研究者及び研究シーズの企業への紹介、大学の知的財産の保護と活用、企業との共同研究等の支援、産業人材育成講座の開講など幅広い活動を行っている。

#### 2. 事業の取組状況

本報告書では、産学官連携推進部の活動のうち、地域連携に係る特筆すべき活動を中心に報告する。

■ 地元企業と徳島大学研究者との共同研究に関し、プロジェクトの立ち上げや知的財産の取扱いなどの支援を行った。

■ 徳島大学の研究シーズと地元企業の加工・製造技術を融合し、地元の未利用農林資源から高付加価値の製品を開発する「農工商連携コンソーシアム」を展開してきた。本年度は、徳島県農工商連携ファンド事業助成金を活用して昨年度に開発したマイクロ波抽出装置を使用して研究を進めた。なお、この装置は企業の方にも利用開放している。

■ 次代を担う地元企業の中核技術者を対象に、以下の 4 つの講座を開講した。

講座名	時間数	受講者
専門技術講座	24H (6H x 4日)	14名
生産管理講座	42H (6H x 7日)	29名
経営管理講座	42H (6H x 7日)	25名
インターンシップ	15H (3H x 5日)	22名

■ 地域の企業関係者を主対象に、いろいろな話題を提供するイノベーションクラブ講演会を 3 回開催した。



「東京スカイツリーのデザイン」講演会の様子

■ 金融機関との連携を強化するため、産学連携の枠組みについて阿波銀行と協議・調整を進め、2 月 25 日、同行と連携協定を締結した。

### 事業代表者・連絡先

野地 澄晴（産学官連携推進部・部長）  
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7592 fax: 656-7593  
e-mail: center@ccr.tokushima-u.ac.jp

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

■ 共同研究については、例えば、産学官連携推進部の仲介で地域企業と大学院ソシオテクノサイエンス研究部の成行教授が共同開発した高強度次世代型パイプハウスのモデルが完成し、平成 24 年 11 月 29 日、関係者への実証展示圃現地視察及び講演会が開催された。参加者は約 60 人に上り、関係者の関心が非常に高いことが分かる。今後とも、地元企業との連携強化を図りたい。

■ 農工商連携コンソーシアムに関して、本年度は、スタチ果皮のエキス抽出と評価、並びにフキ及びフキノトウの実験室での成分分析及び生理活性評価を行った。今後は、これらのデータを Web で紹介し、地元企業による活用促進を図りたい。



次世代型パイプハウス



マイクロ波抽出装置

■ 産業人材育成講座は、平成 17 年の開講以来、これまでに累計 347 名の企業人が受講し、各企業において中核人材として活躍している。平成 25 年度は、講座内容を食品加工の分野に拡げる予定である。

■ 阿波銀行とは、これから、本格的な連携活動を進めることとしている。まずは、定期的な意見交換会を開催する計画である。

## 農工商連携センター

### 事業のポイント

■ 徳島県や県内の他大学と連携し、農工商連携に関する研究や6次産業を担う人材育成を行い、地域再生の核(COC:Center of Community)として中心的な役割を担う。

### 1. 設置の目的

農工商連携センターは、本学が徳島県との間で、農工商連携に関する人材育成と実践的な研究の推進による地域産業の活性化を目的として平成24年3月に締結した「教育・研究分野における農工商連携の推進に関する協定」に基づき、平成24年4月に設置された学内共同教育研究施設です。

同センターは、本学が平成21年10月に徳島県との間で締結した「教育・研究分野における農工商連携の推進に関する協定」による取組みをさらに発展・充実させ、1次、2次、3次産業を統合した新たな産業、いわゆる6次産業の振興を支援し、工学部生物工学科による農工商連携スタディーズの支援による6次産業を担う人材育成の他、徳島県との連携に基づく様々な取組みを行うことを目的として設置されています。

〈農工商連携センターの主な業務内容〉

- ・ 農工商連携の推進に資する教育プログラムの創設・実施
- ・ 徳島大学と徳島県が有する人的資源や物的資源等の相互利用
- ・ 研究者間の相互交流と共同研究の推進
- ・ 産学官連携による実践的な農工商連携プロジェクトの推進

### 2. 事業の取組状況

#### ① 研究

・ 「メリクロン苗の大量生産の技術開発支援事業」(公益財団法人とくしま産業振興機構：農工商連携ファンド事業助成金)

研究内容：大量のウイルスフリーなメリクロン苗を、安定



### 事業代表者・連絡先

野地 澄晴(農工商連携センター・センター長)  
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24  
tel: 088-656-7098 fax: 088-656-9301  
e-mail: noji@tokushima-u.ac.jp

的かつ短期間で一度に作成できる「植物工場システム」を開発し、県内の企業、農業法人等への技術支援、県内の育苗業者への技術移転を行う。

#### ② 地域を対象とした学習機会の提供

##### (1) 「徳島大学農工商連携フォーラム」

目的：農工商連携センターと徳島県立総合大学校本部が共同して、6次産業関連事業の先頭を走る民間事業主や研究者によるフォーラムを開催し、県内における農工商連携、6次産業化の推進の必要性や教育・研究の重要性を知っていただくとともに、機運の醸成を図る。

日時等：2月17日(日)(阿波観光ホテル)

参加者：約170名(県民、学生、農工商関連企業・団体等)



##### (2) 「徳島大学農工商連携セミナー」

目的：徳島県内外の6次産業化、農工商連携の現状や生産技術等について、県内の産業従事者、県民、学生等を対象に、識者からの講演をいただくとともに、大学の研究内容を報告し、徳島県における6次産業と農工商連携の推進を図る。  
日時等：3月2日(土)(工学部共通講義棟4階401講義室)  
参加者：約80名(県内の農業従事者、学生、農工商関連企業・団体等)



## 徳島大学6次産業連携協議会

### 事業のポイント

■ 徳島大学と県内で6次産業に携わる関係者が、6次産業に関する地域の課題や方向性等について意見交換を行う。

### 1. 協議会の目的

徳島県における農業の6次産業化や高度化を支援するため、徳島大学は農工商連携センターを設置し、学内の教育支援及び関連の研究を推進している。

地域に所在する大学の使命として、同センターで行う教育・研究には、地域における課題やニーズを反映させるとともに、地域の関係者と問題意識を共有することが重要であることから、大学や県内で6次産業に携わる関係者が連携し、地域の問題解決と経済活性化を目指して協議会を設置し、①県内農業の6次産業化、高度化に関する課題と今後の方向性、②6次産業の強化・連携による県内経済の発展方策、③農工商連携センター運営に関する提言等について意見交換を行う。

### 2. 協議会委員

#### 【6次産業関係企業等】

- (株)アグリベスト代表取締役社長 楠 正人
- 市岡製菓(株) 市岡匡基
- (株)いどり代表取締役社長 横石知二
- (株)河野メリクロン代表取締役社長 河野通郎
- (株)四季彩石井店長 小川貴士
- 四国化工機(株)顧問 大田昌平
- しゃぶしゃぶ剛代表 原田 剛
- (株)たむらのタマゴ専務 田村桂樹
- 徳島県しいたけ生産販売組合連合会会長 坂口常博
- 日新酒類(株)代表取締役社長 前田康人
- (株)丸本常務取締役 近藤美郷
- (株)みむら代表取締役 大熊紘治

#### 【関係機関】

- (株)阿波銀行本店第二営業部長 岩橋俊之
- (財)徳島経済研究所専務理事 田村耕一
- 徳島県商工会連合会産業振興部長 松浦良司
- 徳島県農林水産総合技術支援センター農業大学校長 安岡道博

### 事業代表者・連絡先

野地 澄晴(理事(研究担当))  
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24  
tel: 088-656-7098 fax: 088-656-9301  
e-mail: noji@tokushima-u.ac.jp

### 【徳島大学農工商連携センター会議委員】

- (徳島大学)
- センター長・徳島大学理事(研究担当) 野地澄晴
- 副センター長・徳島大学理事(地域連携担当) 佐野正孝
- 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授 横井川久己男
- 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(栄養学系)教授 寺尾純二
- 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学系)教授 大高 章
- 大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授 辻 明彦
- 大学院ソシオテクノサイエンス研究部講師 宮脇克行
- 総務部総務課総務課長 村田三郎
- 総務部企画・評価課長 川野晋資
- 学務部教育支援課長 坂東健一
- 研究国際産学連携・研究推進課長 川瀬 勲
- (徳島県)
- 政策創造部県立総合大学校本部長 加藤秀典
- 商工労働部工業技術支援本部本部長 福田和弘
- 商工労働部政策調査幹 掛田英樹
- 農林水産部農林水産技術支援本部本部長 矢野隆史
- 農林水産部企画研究課長 斉藤 博
- 農林水産部普及教育課長 水岡吾郎

### 3. 開催状況

日時：2月21日(木)

場所：徳島大学日亜会館会議室

